

～ジカウイルス感染症が広がりつつあります～

ジカウイルス感染症患者さんの数が徐々に増えつつあります。そのため、当局は感染の広がりを抑えるべく、調査、防蚊剤の散布、患者の治療等を行っています。

では一般の居住者である私たちはどうすればよいのでしょうか？

それは、“自分でも出来ることをする”、ことです。内容は、①ウイルスを媒介する蚊を増やさない対策をすること、②蚊にさされない工夫をすること、の2つです。

① ウイルスを媒介する蚊を増やさない対策をすること

いくら防蚊剤をまいても、蚊は増えてきてしまいます。それは、年中高温多湿な気候のため、蚊が増えやすく、増える場所が数多くあるからです。そこで、シンガポール政府は、居住者一人一人の意識が大切だとして、10年以上前からデング熱の対策として、様々なメディアを使ってキャンペーンを行い、居住者一人一人が蚊を増やさないという意識を高く持ち、実際に行動するよう促しています。

具体的には、**DO THE 5-STEP MOZZY WIPE-OUT** を行うことを促しています。日本人の場合、居住形態から、関係しそうなのはこの5つのうちの3つです。以下に示します。とっても簡単です！

1.鉢植えの受け皿の水は2日に1回捨てる。

2.花瓶の水は2日に1回は取り替える。

3.水がたまりそうな容器（バケツなど）は伏せておく。

また、できるかぎり排水口にも、蓋をしておくことも大切です。特に長期間、家を空ける時は必須です。デング熱の対策として、シンガポール当局は、居住者が長期不在で連絡が取れない時には、居住者の許可を得ることなく、居住者の住居を調べる権利を持っています。そして、“ぼうふら”などが見つければ罰金を科せられますので注意しましょう。

② 蚊に刺されない工夫

1.蚊に刺される機会を減らすためには、現在、集団感染が報じられている地域には、必要がない限り行かないようにしましょう。

2.服装は長袖、長ズボンが推奨されますが、当地の気候から、実際には実行は難しいかもしれません。

3.そこで、助けとなるのは蚊の忌避剤です。**DEET**、または**Picaridin**（ピカリジン、イカリジン）入りのものが薦められます。また、蚊のみならず多くの虫を忌避する効果のある薬剤(**permethrin**,ペルメトリン)が入ったジャケットやスカーフ類も市販されていますので、インターネットなどで検索してみるとよいでしょう。

在日本大使館からの情報など、最新の情報に注視しながら、自分でも出来ることを行っていきましょう。

2016年9月2日 日本人会クリニック